

『咬むこと』の基礎と歯科治療における留意点 ～補綴治療と痛みの観点から～

長崎大学病院義歯補綴治療室講師
鳥 巢 哲 朗 先生

【要 旨】

日本は超高齢社会に突入し高齢化による様々な問題を抱えている。口から咬んで食べることや口腔ケアの重要性が認識されてきているが、口腔の健康に関わる私たち歯科医師がどのようなことに貢献できるだろうか？ また、日常の診療において高齢者ではなくとも、口腔顔面領域での痛みや原因解明が困難な不快感等により、咀嚼を含めた口腔機能に問題を有する患者が来院され、対応に苦慮する場面に遭遇する。

このような様々な患者に対し、歯科医療関係者として健康な状態を提供しようと日々努力されていることと思う。今回は「咬む・食べる」という行動の基礎的な調節機構、歯科治療を実施する際に注意すべき点、大学病院で行った高齢者治療に対する効果のまとめ等を交えながら、このような問題に対し歯科医師としてどのようなことに貢献できるか、その可能性をご紹介したい。皆様方の日々の診療における問題解決のヒントとなれば幸いである。